＜音楽科＞

音楽を心から楽しむことができる児童の育成

～　確かな技能と思考力を身に付ける学習活動を通して　～

大垣市立日新小学校　教諭　渡辺　怜奈

概　　要

新型コロナウイルスの流行が，児童の音楽的技能・思考力に与えた影響は大きい。自粛していた数年間で，音楽のよさを表現する技能や，よさを見つける思考力が大きく低下してしまい，音楽を心から楽しむことができる児童が減っていると感じている。そこで，音楽的技能と思考力の両方にアプローチし，児童の発達段階に合わせたふさわしい技能と思考力を身に付けることを目指した。

本研究は，２年生と４年生を対象に実践を行った。２年生では，児童の発声の仕方や音高感覚を身に付ける活動を取り入れたり，曲想に合わせた表現を工夫したりする活動などを行った。活動を通して，自分の技能を高めたい意欲が向上し，曲想に合わせた表現ができる児童が増えた。また，４年生では，曲想と音楽の構造とを結びつけて思考することを目指して，「音楽キーワード貯金」のツールを取り入れた。これにより，曲想と音楽の構造との関わりを意識して考えることができるようになってきた。このような実践を通し，音楽のよさを味わって楽しめる子どもが増えた。

１．主題設定の理由

（１）今日的課題と児童の実態から

新型コロナウイルスの流行により，思うように声を出したり仲間と協力しながら音楽を心から楽しんだりする活動ができない年が続いた。ようやく普段通りの活動が再開しつつあるが，数年間の自粛が児童に与えた影響は大きく，発達段階に合った音楽を楽しむための技能や思考力が身についているとは言い難い。以下は，自身が音楽を担当しているクラスの実態である。

【２年１組】

曲想を感じ取って表現を工夫しようとする児童が多く意欲も高いが，技能が伴っていない（特に音高感覚），歌唱や演奏に自信がなく思い通りに表現できない児童が４割ほどいるのが現状である。さらに，音高感覚のズレに自覚が無く，話し言葉の感覚で歌っている児童も２割ほどいる。

【４年１組】

音楽を楽しみたいという意欲はみられ，教師の範唱に近づける技能はもっているが，曲想と音楽の構造を結びつけて考えることができる児童が少ない。学習の振り返りを行うと，曲のよさを見つけることができたと自己評価する児童が殆どだが，実際は曲のよさを言語化できておらず思考が深まっていない児童が４割ほどを占めており，自分を客観視できていない児童が多いのが現状である。

以上２学年の実態と今日的課題から，児童の発達段階に合わせたふさわしい技能と思考力を身に付け，音楽を楽しむことができる児童を育てていきたいと考えた。

（２）学習指導要領から

平成２９年度に告示された小学校学習指導要領の目標には，音楽科の目標について以下のように示されている。

「表現および鑑賞の活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（１）曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに，表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

（２）音楽表現を工夫することや，音楽を味わって聴くことができるようにする。

（３）音楽活動の楽しさを体験することを通して，音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに，音楽に親しむ態度を養い，豊かな情操を培う。」

知識・技能だけあれば良い，模範演奏の真似ができれば良いのでは無い。音楽的な見方・考え方を働かせながら音楽を聴き，曲に対して自分の思いや意図をもち，よりよい音楽表現を探求したり音楽を味わって聴いたりすることができる児童を育成していくことで，生涯に渡って音楽を楽しむ素晴らしさを伝えることができるだろうと考え，研究を行った。

２ 研究仮説

音高感覚を養うなどの技能を向上させる活動を行うことで，自分の声や演奏に自信をもてるようになり表現の幅が広がる。また，曲想と音楽の構造とを結びつける思考力を高めるツールを用いることで，曲に対する思いを広げたり曲想を表す意図をもったりすることができ，より深い音楽表現につながる。このような実践を行うことで，児童の発達段階に合わせたふさわしい技能と思考力を身に付け，より音楽を楽しむことができるようになるだろう。

３ 研究内容

研究内容（１）
曲想に合わせた音楽表現をするための指導計画の工夫

①児童の音高感覚を養うために，教師の働きかけや教具を工夫する。
②曲想にふさわしい歌声や楽器の演奏になるように思考し，十分に実践することができる場を設定する。
③互いの演奏を聴き合い，より良い表現を目指そうと試行錯誤する場を設定する。

研究内容（２）
発達段階を意識した思考活動の工夫

①児童の発達段階に応じた思考活動やツールを用意し，音楽的な見方，考え方を働かせて聴くことができる鑑賞活動を行う。

４ 研究実践

研究内容（１）
曲想に合わせた音楽表現をするための指導計画の工夫

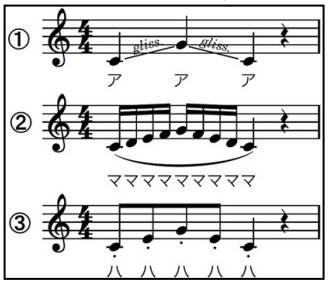
①児童の音高感覚を養うために，教師の働きかけや教具を工夫する。

ア．２年生題材名「ドレミであそぼう」

音の高低がうまく取れず，音程が無い歌い方になってしまう姿が見られたため，６月に行った本単元の学習で，音高感覚を養う取組をいくつか行った。

まず，ドレミ風船を用いながらドレミの歌を歌ったり，音当てクイズを行ったりした。ドレミ風船を指さしながらドレミの歌を歌うことで，段々と音が高くなっていく感覚を掴むことができた。ドレミの歌で音の高低を掴んできたところで，音当てクイズを行った。教師が歌う音はどの音か考える活動を行ったが，初めは階名を付けながら発声して分かりやすくし，慣れてきたら全て「アー」と発音して難易度を上げていった。何時間か行うことで，音高を理解できるようになってきた。

ドレミ風船に慣れたところで，自分の手を使った「音階段」の活動を取り入れた。自分の胸の高さぐらいを真ん中のドとして，音が上がっていく度に，腕を階段のように上げながら歌うようにした。腕を上げるだけでなく，背伸びをしたり眉毛を上に上げて歌ったりする姿が見られた。しかし，体の動きと音の高さが上手く連動しない児童もいた。そこで，次のような発声練習を取り入れた。



【図１ 発声練習】

①～③に順番に取り組むことで，自分が発声している音の幅に注目できるようになってきた。特に①に取り組むことで，最低音から最高音まで大きな幅があるということを体感できたので，②と③の練習にスムーズに移行することができた。

「ドレミであそぼう」での実践を他の題材でも続けていった結果，児童の音高感覚に変化が現れてきた。児童Ａは，１年生の時から音程の変化が無い歌い方をしていたが，この活動を通して音の幅が広がり，１１月に「かぼちゃ」を歌う頃には正しい音程を取れるようになった。児童Ｂは，声量はあるが真ん中のド～ソぐらいまでの音の高さでしか歌えず，本人にあまり自覚も無かった。しかし，振り返りカードを見ると「歌の時に違う音を出してしまうから，きれいな音を出せるようになりたい。」と書いており，音の高さに意識が向けられるようになったことが分かる。そして，授業以外の朝の歌などでも，音階段を使って高さを捉えようとしたり片耳を塞いで自分の声をよく聞こうとしたりして，自分の声と向き合い努力できるようになった。

②曲想にふさわしい歌声や楽器の演奏になるように思考し，十分に実践することができる場を設定する。

ア．２年生題材名「いろいろながっきの音をさがそう」

本単元は，いろいろな楽器の音色の違いやよさを見つけ，楽器を組み合わせたり重ねたりして楽しんだりする題材だが，単元の最後に学習する「かぼちゃ」は，曲想に合わせてどのように楽器を組み合わせるか，どう演奏するかも考える楽しさのある曲である。大きなかぼちゃを運ぶために，ど

んどん人が集まってきて力を合わせる様子を音で表現できるとよいと感じ，活動を行った。

まずは，「かぼちゃ」の歌詞にも触れながら音取りを行い，曲のストーリーを理解できるようにした。１年生の国語で「大きなかぶ」の学習を行っているので，「大きなかぶと何か似ていませんか。」と児童に尋ねると，「段々と人が増えていくところが似ています。」と答えた。これで，「かぼちゃ」のストーリーを理解することができた。

次に，７～８人の４つのグループに分かれ，どの部分を演奏するかを決めた。初めは手拍子で演奏し，１人目から７人目まで，人が増える度に音が強くなっていく感覚を味わうようにした。

その後，7つの打楽器の組み合わせ方について，グループで考え練習する時間に移った。グループ同士の距離をできるだけ取り，自分たちの音が聴きやすい配置にした。そして，ＣＤ音源を繰り返し流して練習を行ったが，一回流れる度に２分程インターバルを作って，話し合いができるようにして取り組んだ。以下，Ｃグループの児童Ｂと児童Ｃを中心とした楽器決めの様子である。

児童Ｂ：「かぼちゃは最初１人で運んでいるから，弱い音の楽器がいいんじゃないかな。」
児童Ｃ：「そうだね。楽器の音を出してどれがいいか確かめてみようよ。」
～グループの皆で音を出して確かめる～
児童Ｃ：「カスタネット，クラベス，すずのどれかを最初にするとよさそう。」
児童Ｄ：「そうだね。その３つのどれかにしようよ。小太鼓の音は，びっくりするような強い音も出せるから，最後にしたらどうかな。」
児童Ｃ：「良いと思う。じゃあ細かい順番を決めていこう。」

この後も話し合いを続け，何度も組み合わせを変えながら協力して練習する姿があった。最終的に，クラベス→カスタネット→タンブリン→すず→ウッドブロック→トライアングル→小太鼓の順番で発表を行った。発表の後にどうしてこの順番にしたかを聞くと，カスタネットなどは小さい音がするから最初の方にして，小太鼓は大きい音も出せるから最後にしたと話した。この実践では，「かぼちゃ」のストーリーを理解してから練習に取り組んだり，練習中のインターバルを作ったりしたことで，曲想にふさわしい楽器演奏について考えることに繋がった。

イ．２年生題材名「ようすをおもいうかべよう」

本題材では，「あのね，のねずみは」と「夕やけこやけ」などの歌唱を通して，登場人物になりきったり情景を思い浮かべたりして表現を工夫できるよう働きかけを行った。

【あのね，のねずみは】

「あのね，のねずみは」は，のねずみ，ふくろう，みつばちの３匹のキャラクターが登場するが，歌詞を読むとそれぞれ違った性格をしている。途中に，「チュウ」「ホウ」「ブーン」という擬音語も入っており，それぞれのキャラクターになりきって歌う楽しさを十分に感じられる曲となっている。キャラクターの個性を十分に表すことができるように，児童と以下のやりとりを行った。

Ｔ：「のねずみは，どんな性格をしているのかな。」
Ｃ：「のねずみは，臆病者で人見知りだけれど，優しい性格です。」
Ｔ：「じゃあ，『チュウ』というところはどうやって歌ったらいいかな。」

児童に歌ってもらうと，最初に歌ったときより少し声を弱めて歌うようになった。しかし，中には強い声で元気良く歌い，のねずみの性格をあまり考えていない声の出し方をする児童もいた。そこで，教師の範唱を聴いて，どちらがふさわしいかを考える質問を取り入れた。

Ｔ：「先生が今から２つの『チュウ』を歌うから，のねずみの性格にはどちらが合っているか聴いていてね。」
～「①力強い歌い方」と「②弱々しい歌い方」の２つの例を示す～
Ｔ：「どちらが合っていると思いましたか。」
Ｃ：「②番の方が合っていました。」
Ｔ：「どうしてそう思ったの。」
Ｃ：「小さくて弱い方が，臆病なのねずみに合っていると思ったからです。」

質問の後，もう一度全員で歌うと，音を弱くしたり高くしたりする，肩をすぼめて口の開け方を変えて歌うなど，最初よりも表現の幅が広がった。

【ゆうやけこやけ】

この曲は，１番と２番の時間の変化に着目するように教師から働きかけた。情景を捉えやすくするために，教室のカーテンを閉めた。また，前奏や間奏の時に，このような声かけを行った。

前奏：「今からこの教室は夕方になります。空が真っ赤に染まっていますよ。」
間奏：「だんだんと空が暗くなってきましたね。きらきらなお星様が見えてきました。」

直前まで「あのね，のねずみは」を明るい声で体を跳ねるように動かして歌っていたが，「ゆうやけこやけ」を歌うときは，のびやかな美しい声で歌い，体をゆっくりと横に揺らしながら歌うこ

とができた。曲の世界観に入り込むような工夫を行うことで，曲想に合わせた表現を児童が考えて実践する姿を引き出すことができた。

③互いの演奏を聴き合い，より良い表現を目指そうと試行錯誤する場を設定する。

ア．２年生題材名「ドレミであそぼう」

本題材の最後に学習する「ぷっかりくじら」には，旋律遊びの要素が含まれており，終わり２小節は音を選んで旋律を作る活動になっている。この活動を通して，仲間の演奏を聴きながらよりよい表現を目指す活動を考えた。

予め，３つの旋律を用意して，その中から気に入った旋律を選ぶようにした。これは，児童がその旋律を選んだ根拠がぶれないようにするためと，音高感覚を養う単元であったため，全員が３つの旋律を音程正しく演奏できるようにするためである。

まず，ピアノ＋合唱の音源に合わせながら，鍵盤ハーモニカで旋律②の模範演奏を行った。児童は，今まで聴いてきた旋律とは違うことを感じ取り，吹いてみたいという意欲を高めることができた。意欲が高まったところで，児童に３つの旋律を提示し，一緒に歌いながら旋律の特徴を確かめた。一つ一つ音の並びや幅が異なっているので，それぞれの特徴に合わせて，①ジグザグジェットコースター，②とんがり山，③かみなりとその場で名前を付けた。３種類の律を練習した後，お気に入りを選び歌と合わせて演奏を行ったが，「他の演奏を聴いてお気に入りを変えても良いです。」と声を掛けて始めた。それぞれの演奏交流を行った後，もう一度選んだり練習したりする時間を取り入れた。すると，１回目とは違う旋律を選んでいる児童が何人もいた。児童Ｄは，振り返りカードに「最初は①番を選んだけれど，歌と合わせたのを聴いたら②番の方が良いなと思った。」と記入しており，仲間の演奏を聴くことで自分の考えを見直すことに繋がった。

【写真１　３つの旋律】

研究内容（２）
小学校と中学校９年間の系統性を意識した思考活動の工夫

①児童の発達段階に応じた思考ツールを用意し，音楽的な見方，考え方を働かせて聴くことができるようにする。

小学校学習指導要領解説音楽編では，鑑賞の活動について発達段階に合わせた目標が示されている。低学年は，「曲や演奏の楽しさを見いだす」こと，中学年は「曲や演奏のよさなどを見いだす」こととある。例えば，低学年の鑑賞では児童が「音楽を聴くことが好き」と思えるように活動をすることが大事であり，旋律を口ずさんだり音楽に合わせて体を動かしたりするなどの活動が例示されている。児童の発達段階に合わせて，曲想と音楽の構造とを関わらせて聴き，曲のよさを見いだすことができるようにするため，次の実践を行った。

ア．２年生の実践

【山のポルカ】

この曲は，自分たちの演奏に合わせて楽しく四分の二拍子に合わせて踊ることを目標に学習を行った。

第１時では，実際にポルカを踊っている演奏を見て，どんな踊りかを掴んだ。そして，自分たちも踊ってみたい，山のポルカに合わせて踊ったら楽しそうだから，上手く演奏できるようになりたいという意欲をもつことができた。

【写真２　舞踏会の様子】

学習のまとめとして，最後に「舞踏会」を開いた。自分たちで演奏し，２人一組になって踊る活動を行ったことで，リズムに合わせてステップを踏むことができた。スキップをする，手を取り合って横に揺らす，相手の体をくるくると回すなど，軽快な曲想に合わせた動きができる児童が多かった。言葉には表しにくい曲想も，体を動かすことで表現することができた。

【たまごのからをつけたひなどりのバレエ】

この曲は，挿絵と音楽を対応させて想像を膨らませながら聴く活動や，音楽に合わせて実際に踊る活動を行った。

この曲の構成はＡ－Ｂ－Ａ’の３部形式であるが，教科書にはそれと対応した雛鳥の挿絵が描かれている。挿絵を指さしながら，児童に今はどの場面か示しながら鑑賞した。ＡとＡ’では一部分だけ雛鳥の動きが違っているので，その事にも触れておいた。以下，各場面の児童の発言である。

Ａ	・速くて踊るのが大変そう ・リズムが細かくて落ち着きの無い感じ ・音が弱くなるときは弱く踊っている
Ｂ	・さっきより少しゆっくりで落ち着いている。 ・緩やかに音が上下していて，綺麗にくるくる回っている感じ
Ａ’	・最初と似ている，速くて急いでいる感じ ・最初とちょっと違う音がある ・音の強さが少し違う

各場面について曲想と音楽の構造を関連させて考えることができた。また，Ａの場面とＡ’の場

面の変化に気付くことができる児童もおり，挿絵と音楽を上手く対応させて聴くことができたと考えられる。

鑑賞後，雛鳥になりきって踊る活動を行った。「バレエの発表会ですから，鳴き声ではなくて踊りで表してくださいね。」と声を掛けて始めた。Aの部分は,羽に見立てた手をパタパタと動かし，かけ足で素早く動き回る様子がみられた。Bの部分は，スケートのように足を滑らせる動きをしたり，バレリーナのようにくるくると回ったりする動きをたくさん取り入れていた。このような踊る活動を取り入れたことで，児童が曲想を感じ取って表現しようとする姿を引き出すことができた。

４年生「音楽キーワード貯金」の実践

４年生の授業では，２学期から「音楽キーワード貯金」の取組を行った。この取組を通して，優しい，明るいなどの曲想を表す「音楽の感じキーワード」をたくさん集めて記録していき，様々な曲想を表す言葉を使えるようになることを目標としている。また，曲想と音楽の構造とを結びつけて聴いたり演奏したりできるようになり，表現の幅が広がっていくよう期待して始めた。

ワークシートの上部には「音楽の感じキーワード（曲想）」，下部には「音楽を表すキーワード（音楽の構造）」を書き込むことができるように示した。児童たちには，「授業中に思い浮かんだ言葉や仲間の発言で良いと思った言葉があれば，積極的に書き込んでキーワードを貯めていきましょう。」と話して取組を始めた。仲間や教師が言った言葉を書き込む姿があり，特に「音楽の感じキーワード」を積極的に書き込んでいた。

この活動を始めてから，『白鳥』と『堂々たるライオンの行進』，『ファランドール』の３つの鑑賞活動を行ったが，１学期に『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』の鑑賞を行った時と比べて，児童の思考に変化がみられた。特に変化の大きかった，２人の児童の記録をまとめた。

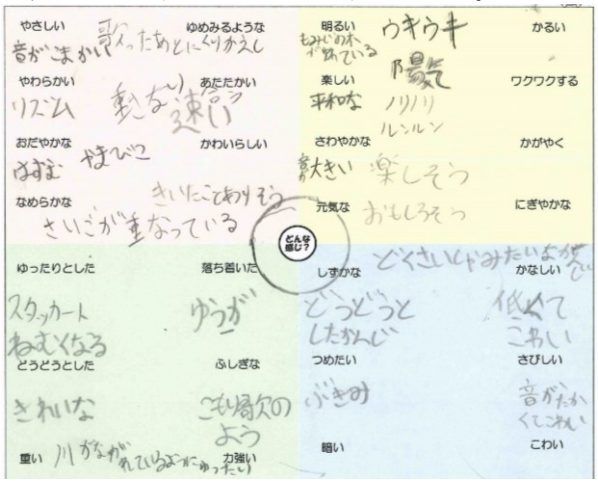
【児童Ｅ】　『魔笛』の鑑賞時

問い	この曲のすてきなところを紹介する文を書きましょう。「かけ合い」「重なり」「歌声」などのキーワードが使えるとよいです。
児童の記述	パパゲーノとパパゲーナが声を掛け合っている歌声も，２人の声が重なり合っている部分の歌声も，**どちらもいい**と思いました。

『動物の謝肉祭』の鑑賞時

問い	あなたが特に気に入った曲は，どちらの曲ですか。特に気に入った曲についておすすめする紹介文を書きましょう。
児童の記述	僕が気に入ったのは，「白鳥」です。理由は，「堂々たるライオンの行進」と違って，**音が綺麗でゆったり**とした感じで，夜に聴くとゆったりと眠りにつけそうだし，「堂々たるライオンの行進」のように**高い音が続くことがあまりない**から，「白鳥」が気に入りました。

児童Ｅは，音楽を楽しんで聴こうとする意欲は高いが，音楽の構造と結びつけて考える事に課題があり，１学期は「どちらもいい」という曖昧な表現をしていた。しかし，音楽キーワード貯金を始めてから仲間の意見を積極的に取り入れ，「音が綺麗でゆったり」「高い音が続くことがあまりない」など，音楽の構造と曲想をより詳しい言葉で関連付ける記述ができるようになった。



【図２　児童Ｅの音楽キーワード貯金】

【児童Ｆ】　『魔笛』の鑑賞時

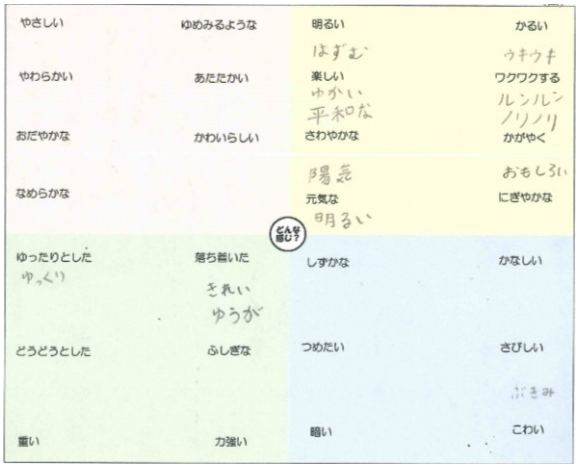
問い	※児童Ｅの時と同様なので省略。
児童の記述	掛け合っている部分は２人が再会して喜び合っている様に聞こえるし，重なっている部分は２人の歌声が一つになっているところが素敵な曲です。

『アルルの女』鑑賞時

問い	この曲を初めて聴く人へ，おすすめする紹介文を書きましょう。「せんりつ」「音の重なり」などのキーワードが使えるとよいです。
児童の記述	最初の方は**音が大きくて勇敢な感じ**なので，聴くと元気になれます。途中から**優雅でノリノリ**になれます。最後のところは**２つの音が重なっているから，元気で陽気**になれるし，**ウキウキしている気持**ちになれます。

児童Ｆは，音楽の構造と曲想とを関わらせて聴こうとする力がある程度備わっていたが，２学期以降は表現の幅が大きく広がった。強く大きい音

から「勇敢」さを感じたり，旋律の重なりから「元気で陽気，ウキウキ」と感じたりするなど１学期にはみられなかった多様な言葉で表現できるようになった。仲間の発言から語彙を広げ，更に音楽を楽しんで聴くことができるようになっている。

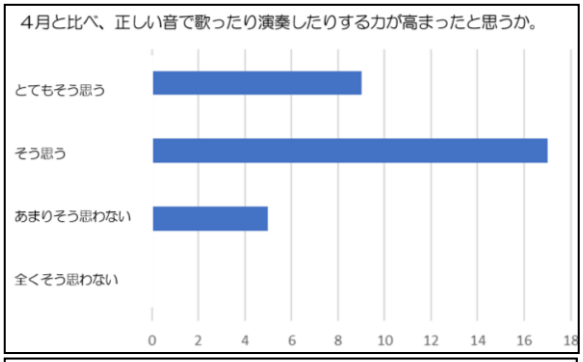


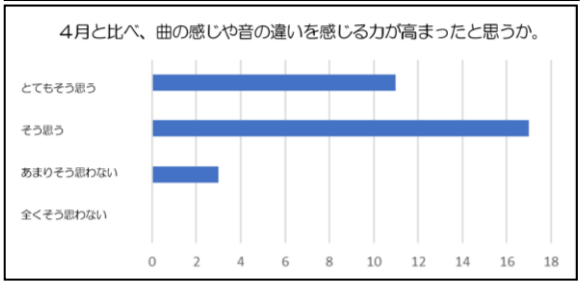
【図３　児童Ｅの音楽キーワード貯金】

５ 成果（○）と課題（●）

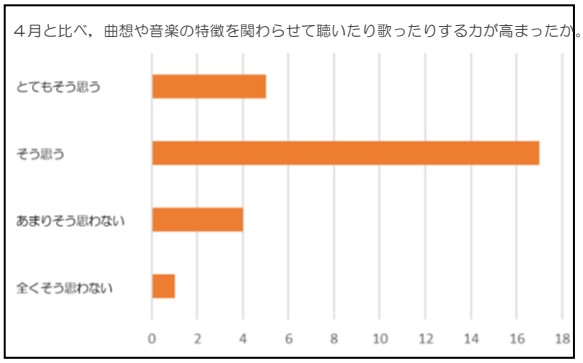
１２月に，児童にアンケートを実施した。

【２年生】





【４年生】



○２年生児童のうち，８割以上の児童が音楽の技能が向上したと回答した。また，約９割の児童が曲想と音楽の構造などを感じる力が高まったと回答し，どちらの設問でも自分の成長を感じられる児童が多かった。この結果から，技能と思考力は共に培われていくことが大切であり，今回の取組を通して児童たちに「できた」という実感をもたせることができた。

○４年生児童のうち，約８割の児童が曲想と音楽の構造とを関わらせて聴いたり歌ったりする力が向上したと回答している。この結果から，「音楽キーワード貯金」の取組は，曲想と音楽の構造とを結びつけて考えることができる児童を育成するために有効な手立てであったと考えられる。

○今回の実践を通して，発達段階に合わせた確かな技能と思考力を身に付けていったことで，児童がより音楽を楽しむことができるようになったと考えられる。

●自分の変化を肯定的に感じられなかった児童について，自信をもてるようにする工夫や自分の成長を感じられる指導の工夫をしていきたい。

６ 参考資料

・文部科学省　小学校学習指導要領解説音楽編（平成２９年度告示）
・教育芸術社　６年間の題材の系統一覧